



日本遺産を活用しよう！ ～北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽～

■初の単独型日本遺産

今年2月4日、小樽市が国に申請していた日本遺産ストーリー「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」が、文化庁に認定され、念願だった単独型の日本遺産ストーリーを手に入れる事ができました。

日本遺産 (Japan Heritage) は平成27年から始まった制度で、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。およそ、どの街にも有形・無形の文化財群がありますが、地域が主体となつて整備活用し、国内外へ発信することで地域活性化を図ることを目的としており、日本の文化遺産を保護する制度の一つに位置付けられています。

既に小樽市には「北前船」と「炭鉄港」の2つの日本遺産がありますが、これはシリアル型と呼ばれるもので、複数の自治体にまたがつてストーリーが展開されています。今回、認定されたのは単独型と言われ、小樽市内だけでストーリーが完結するものとなっており、日本の近代化を支えた北日本随一の都市だった小樽が、「民の力」で

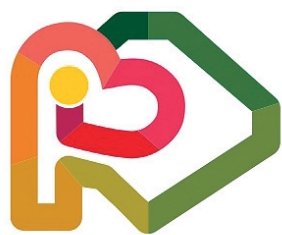
まちづくりをしてきた歴史がストーリーとなっています。

■活用による地域活性化

日本遺産は、文化財保護に加え、地域の歴史や文化を活かした観光振興や地域活性化が大きな目的であることから、観光業や関連ビジネスを通じて経済的な利益を生み出すことが大いに期待されています。

例えば、日本遺産ストーリーを活用した観光プログラムやイベントとして、ストーリーの構成文化財となっている歴史的建造物を巡るガイド付きツアーや伝統工芸、郷土料理を体験できるワークショップがあります。

さらに、歴史的建造物を活かした宿泊施設やカフェの運営、小樽の歴史や文化をテーマにした商品開発・販売などが考えられます。



北海道の『心臓』と呼ばれたまち

OTARU

(図1) 北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽ロゴマーク



(写真1) 日本遺産認定記念デザインの日本酒

公式ロゴマーク(図1)は、商業利用として使用することができ、田中酒造株式会社では、ロゴマークの入った日本遺産認定記念デザインの日本酒を発売しています(写真1)。

小樽は、これまでも歴史を活かしたまちづくりを官民で進めてきましたが、今回の日本遺産認定を契機に、一層、文化と観光と経済が好循環の輪を描くような取り組みを進めることが重要です(図2)。

特にインバウンドを中心とする観光客入込数が好調に推移しているチャンスを逃さず、小樽の歴史的背景を有する商品やサービスを提供することは、経済活性化のみならず、街の魅力を一層高める事に繋がります。



(図2)

■上手く活用するために

日本遺産を上手く活用するためには、日本遺産が紡ぐ物語をよく理解する必要があります。

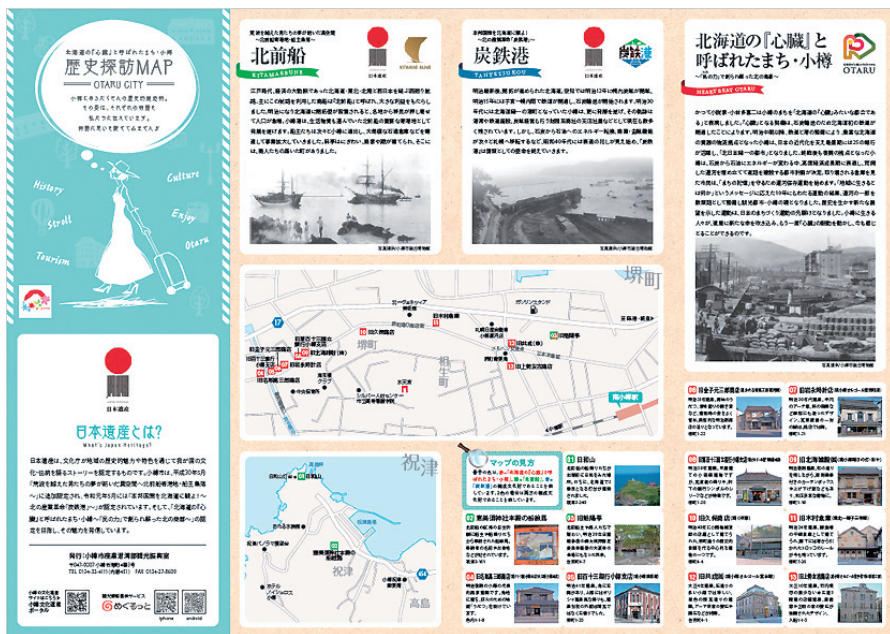
小樽市では、これまでも構成文化財を示した『歴史探訪MAP』(写真2)や『とっておきの解説集』(写真3)などを発行し、日本遺産ストーリーの普及・啓発を進めてきました。

また、日本遺産に関する動画や前記解説集などを掲載するポータルサイトを運営し、誰でも情報を得ることが出来ます(下記QRコード)。

今年度は日本遺産認定にかかるフォーラムを開催し、日本遺産の

審査評価委員の講演会を通じて市民に日本遺産ストーリーの魅力伝えることを予定しています。

日本遺産ストーリーに関する各種事業は、小樽市日本遺産推進協議会を中心に進めており、日本遺産に関するご質問等については、小樽市産業港湾部観光振興室日本遺産担当までお問い合わせください。

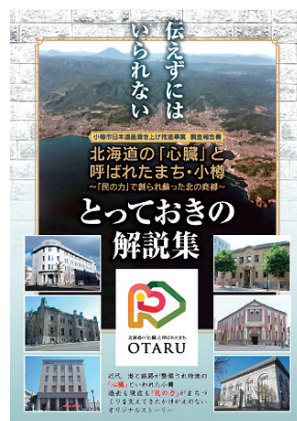


(写真2) 歴史探訪MAP

小樽市日本遺産推進協議会
(事務局：小樽市産業港湾部観光振興室)
住 所：〒047-0007 小樽市港町4番3号
電 話：0134-32-4111 FAX：0134-27-8600
MAIL：nihon-isan@city.otaru.lg.jp



小樽文化遺産ポータル
ホームページ



(写真3) とっておきの解説集